

特選  
文部科学  
大臣賞

2022

## 第55回「おかねの作文」コンクール

# あの時五千円を財布から出していたら

奈良県・三郷町立三郷中学校 1年 藤本 瑛巨

2019年10月31日未明、沖縄の首里城で火災が起きました。火災は、約11時間にわたり燃え続けた後、鎮火されました。この時、僕は小学校4年生でした。

僕は、ニュースでこれを見てびっくりして、すごく悲しい気持ちになりました。なぜなら僕の家族はみんな沖縄が大好きで、毎年沖縄旅行に行っているからです。何かできることはと考え「募金をしよう」と決めました。すぐにお父さんとお母さんに「募金するわ」と伝えました。「誰のお金で？」と聞かれたので「自分のお金」と言い「いくら募金するの？」と聞かれ「5,000円」と答えました。「募金しようと思うのはすごくいいこと。自動販売機でジュースを買う時も高いから一番安い値段のジュースを選ぶのに、自分のお金でしようとするのはすごいことやし、びっくりしたわ」と言ってほめてくれました。

その日の夜だったと思います。お母さんに「首里城の募金の話やけど、募金するのは良いことやけど、5,000円を渡すだけでいいと思う？ 自分で努力したり、思い続けることの方がもっと大切なんちゃう？ 本当に募金したいなら、自分で頑張ってお金を貯めて募金する方がいいんちゃう？ 想いのこもったお金の方がずっと価値があるし、忘れないで続けることを大切にしてほしいねんけど、どう思う？」と言われ、すごくいいと思い、話し合ってお手伝い1回10円ルールを決めました。毎日、みんなの布団をたたみ、夜は布団をしきました。他にも色々なお手伝いをみつけてやりました。大変なお手伝いは値段を上げてもらい、テストが100点だったらお小遣いをもらうなどの交渉をしました。しんどい時もあったけど、首里城のことを思い出すと頑張れました。

12月24日、首里城に募金を届けに行きました。1,910円、少ないけど気持ちと努力がつまったお金です。こんなに感謝してもらえると想像していなかったの、少し恥ずかしかったです。1回10円というのは、少ない金額だけど、毎日努力して続けていけば大きなお金になるし、「塵も積もれば山となる」という経験をし

ました。人や何かのために努力することは周りだけでなく、自分も幸せなんだと知り、思っているだけでは伝わらないから、行動を起こすことが大事なんだなと思いました。そして、お金をかせぐことの大変さも学びました。

僕は今、中学1年生です。1回10円のお手伝いは今も続けています。現在、21,605円貯まっています。貯金箱は、とても重いです。お母さんに「頑張った努力と気持ちがその重さと量やな。5,000円札1枚とはぜんぜん違う。募金するのもったいないと思わへんの?」と言われたけど、僕はもったいないとは思いません。お金を貯めるのは時間がかかるし気持ちや体力も必要なので、すごく大変なことなんだと改めて感じました。今までは、買ってもらったり全てあたり前で、感謝もしていませんでした。でも、お金を貯める大変さを経験し、家族のために頑張ってくれているお父さん、お母さんに感謝をしないといけないと気付きました。お金や物を大切にしないというのは、頑張ってくれた人の気持ちや努力を大切にしていけないのと同じだと思うから、それに気付くことができ良かったです。努力と気持ちのつまったお金は、とても価値のあるもので、そういうお金だから周りの人や自分も幸せな気持ちになると僕は思います。これからは、お金も想いも大切に無駄にしないようにしたいです。

あの時5,000円を財布から出していたら、これらのたくさんの方に、気付くことができませんでした。まだ知らないこと、気付いていないことがあると思います。何もしなければ気付かなかったと思うので、行動を起こすことは苦手だけど少しずつでもやっつけていこうと思いました。募金は、これからも続けます。

